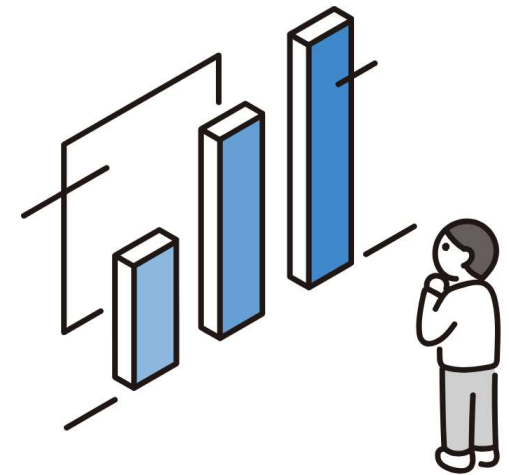


第2次石巻市総合計画後期基本計画における 計画の推進について

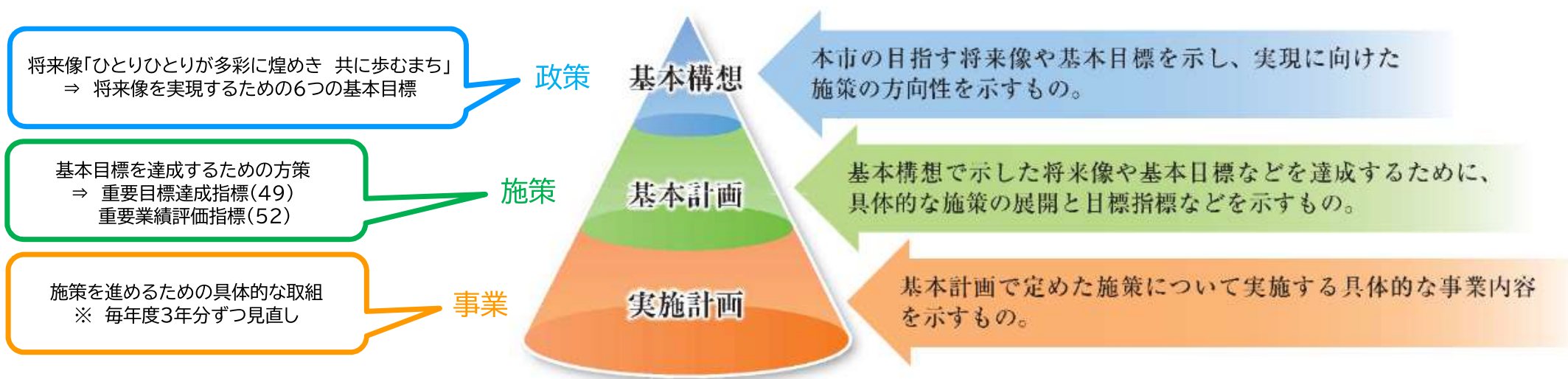
令和8年度 企画部政策企画課



進行管理の全体概要

総合計画の体系について

総合計画は、「**基本構想**」、「**基本計画**」及び「**実施計画**」の3層構造で構成されています。
基本計画は、基本構想で示した将来像や基本目標を達成するために、具体的な施策展開と目標指標などを示すものです。
後期の基本計画は総合計画期間の後半となる令和8年度から令和12年度までの5年間の計画となります。



進行管理の全体概要

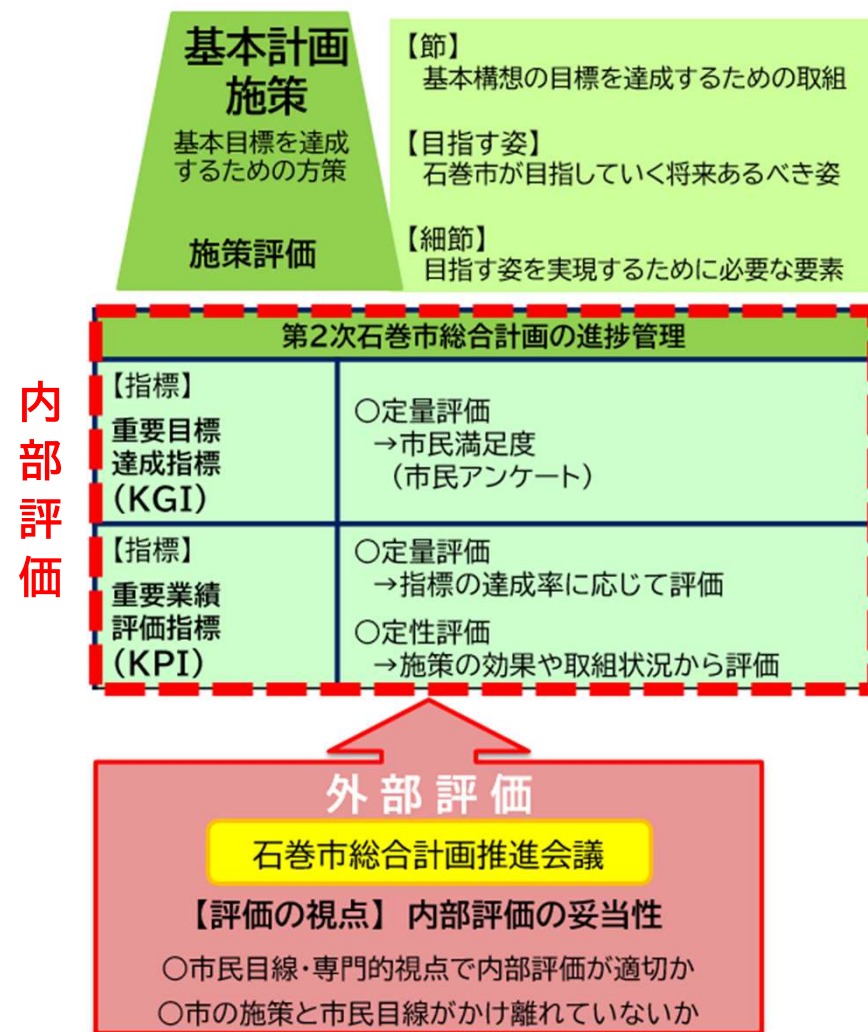
施策評価の流れについて

本市では、施策や業務について客観的に評価し、改善に結び付けるため、「**施策評価**」を実施しています。

施策評価では、施策の進捗に関して担当部局による内部評価が終わった後、学識経験者や関連団体の職員で構成される「**石巻市総合計画推進会議**」において、市民目線・専門的視点で内部評価が適切であるか、市の施策と市民目線がかけ離れていないかなどについて外部評価を実施しています。



(石巻市総合計画推進会議の様子)



後期の基本計画における評価・検証方法について

前期の基本計画における評価・検証方法について

内部評価【担当課において決定する評価】

定量評価	① 指標の目標値に対する達成率からa～dの「達成度」に分類 a：100%以上 b：80～99% c：60～79% d：～59% ➡ 数値で成果を測る客観的な評価 ② 各指標の「達成度」の数によって節に対する評価を4段階で実施	基本計画 各KPIの「①達成度」から4段階で評価 ◎：「aまたはb」のみでaが半数以上 ○：「aまたはb」のみでaが半数未満 △：「cまたはd」がありdが半数未満 ×：dが半数以上 復興創生／地方創生 各KGIの「①達成度」から4段階で評価 ◎：a(どちらもa) ○：b(どちらも「aまたはb」) △：c(どちらかが「cまたはd」) ×：d(どちらもd) ※括弧内はKGIが2つの場合																									
定性評価	③ 施策の効果や取組状況から担当課において3段階で評価 ◎：課題を改善し効果を上げることができた ○：課題の改善に取り組んでいる ×：課題が改善されず効果が上がっていない ➡ 数値化しにくい質的側面(意欲や取組内容等)を評価																										
内部評価の決定	④ 定性評価と定量評価を掛け合わせた右の基準から市の「内部評価」を決定 A：順調 B：概ね順調 C：やや遅れている D：遅れている	<table><tr><th colspan="2" rowspan="2"></th><th colspan="3">定性評価</th></tr><tr><th>◎</th><th>○</th><th>×</th></tr><tr><th rowspan="4">定量評価</th><th>◎</th><td>A</td><td>A</td><td>B</td></tr><tr><th>○</th><td>A</td><td>B</td><td>C</td></tr><tr><th>△</th><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><th>×</th><td>C</td><td>D</td><td>D</td></tr></table> ➡ 定量評価と定性評価を組み合わせることで、公平性と納得感の両立が図られた内部評価となる			定性評価			◎	○	×	定量評価	◎	A	A	B	○	A	B	C	△	B	C	D	×	C	D	D
		定性評価																									
		◎	○	×																							
定量評価	◎	A	A	B																							
	○	A	B	C																							
	△	B	C	D																							
	×	C	D	D																							

外部評価【外部委員による内部評価の妥当性を検証するもの = 総合計画推進会議】

- 市の施策と市民目線がかけ離れていないか検証
- 遅れている施策(CまたはD)に対する意見をいただく

最終評価の決定

- 外部委員からの評価(妥当と思う票と妥当と思わない票)の多数決によって最終評価を決定

前期の評価・検証方法における課題を踏まえた変更点

主な課題

【内部評価に関するもの】

- 複数の指標で構成されている節の場合、「cまたはd評価」が1つでもあると定量評価が「○以上」にならない。

(例:a評価3つ・c評価1つならば△)

- 上記のような定量評価になった場合、施策の効果や取組状況から担当課が定性評価を行っても「A以上」の内部評価にはならない。

⇒ 客観的な評価でも公平性に欠けるケースがある

【外部評価に関するもの】

- 総合計画推進会議において外部委員が妥当性について議論しても、最終的に多数決による評価になれば評価結果が変わるケースは少ない。

⇒ 定性評価による納得感の補完ができない



変更点①

指標の達成率に応じて点数化し、節全体の点数を算出

メリット

点数化により目標達成できたかどうかの評価が一目瞭然となり、より公平性をもった評価ができる。

変更点②

担当課による定性評価を廃止し、外部委員による定性評価を点数化

メリット

数値化しにくい質的側面(意欲や取組内容等)を担当課の説明を基に外部委員が評価することで、当事者(担当課)による定性評価ではなく、市民目線による定性評価ができる。

併せて、定性評価も点数化することにより、多数決ではなく一人一人の評価(点数)の積み重ねによる評価となる。

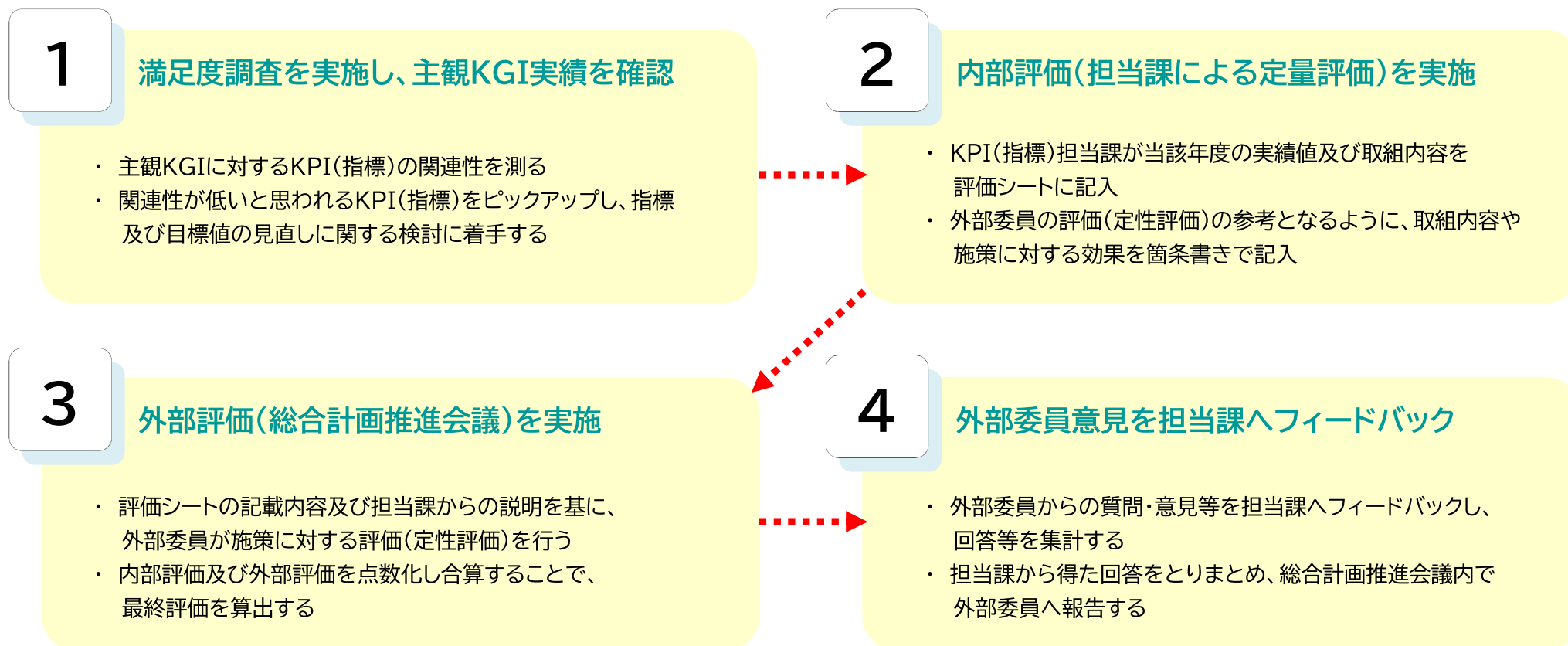
変更点③

定量評価と定性評価の点数を合算または掛け合わせ、最終評価を決定

メリット

最後に外部委員の定性評価による加減点が発生することで、全体の納得感が生まれる。

後期の基本計画における総合計画推進会議の進め方について



評価シート(=各年度のKPIの進捗管理と施策への効果を確認する資料)と、
施策評価報告書(資料編)(=KGIとKPIの因果関係及び評価推移等を確認する資料)を活用し、計画を推進していく

まとめ

後期の基本計画における計画推進スケジュール

KGI
関連

市民満足度調査(KGI)

時期:1月～2月

※KGIとKPIの関連性が
わかる形での調査を
実施予定

分析結果をまとめる

調査結果を基に、中間年
で指標または目標値の
見直しに活用する

市民満足度調査(KGI)

時期:5月～6月

※第3次計画策定の根拠
資料として活用するため、
調査時期を早める

分析結果をまとめる

市民満足度調査(KGI)

時期:1月～2月

※第3次計画における
現状値を計測

市民満足度調査(KGI)

時期:1月～2月

※後期の基本計画における
KGI最終値を計測

2026年
(令和8年度)

2027年
(令和9年度)

2028年
(令和10年度)

2029年
(令和11年度)

2030年
(令和12年度)

後期の基本計画に係る 下準備

- ・評価シート作成
- ・報告書等資料の
フォーマット作成

施策評価(推進会議)

時期:6月下旬～7月上旬
※令和8年度実績について
評価

指標等見直し検討(本部)

時期:4・5月頃
※満足度調査結果を基に
代替指標が必要な場合は
数値の計測を打診

施策評価(推進会議)

時期:6月下旬～7月上旬
※令和9年度実績について
評価

指標等見直し(推進会議)

時期:11月頃
※代替指標との比較の結果、
見直しが必要と判断した場
合は変更する

施策評価(推進会議)

時期:6月下旬～7月上旬
※令和10年度実績について
評価

第3次計画策定(審議会)

時期:10月頃
※ワークショップの実施等
策定に向けて取りかかる

施策評価(推進会議)

時期:6月下旬～7月上旬
※令和11年度実績について
評価

第3次計画策定(審議会)

複数回開催
※構想原案・骨子案・中間案・
答申案・パブコメ等の策定
等進捗に応じて開催

KPI
関連